

槐かい

岡井省二創刊

令和3年5月号

令和四年四月一日発行 第三十一巻第五号 通巻第三五九号 毎月一回 一日発行
平成三年九月十八日第三種郵便物認可



恋

高橋将夫

恋の芽を摘むことはなし剪定す
蛤に恋をしてをる桜貝
恋の猫誠心誠意恋の猫
一粒の告みもバレんタインチョコ

詠み人は人工知能猫の恋

はや人を見る目ありそな子猫かな

七色のピエロの夢のシャボン玉

現実を見つめ直して残る鴨

白梅と紅梅の香をブレンドす

サーカスが来て春の野となりけり

瞑想の中に風船ひとつ浮く



豌豆の巻きひげ

瀬川公馨

烏野豌豆天地の間を全たうす
春の雲パピルスを並び替へねば
花桃やこの指とーまれんれんれん
黄水仙遙か原発見るもよし
烈震かモスラは羽化を始めたる
老鱧に寒のもどりの容赦無し
色あせたミモザの花に残尿感
生まれたる黄砂は山河渡り来し
木漏れ日や大犬ふぐり犬ふぐり
銀のうめぐけ光彩放ちけり

特別作品

はなあらし弓の音色や安土門
豌豆の巻きひげダリの r h a P s o d y
廐出しや藁敷く爺のゐたりけり
遠出して野飼ひの馬と桜かな
大河原の耳目は下野草なりき
春の昼お子さまランチ列なして
語り物にコロナの行方と石子詰め
お水取悔^け過^かの祈りの浄土なり
辛夷咲く秋篠寺へ参らむか
行く春や眉唾物の法螺話

槐集

高橋将夫選

春眠し宇宙にすつと吸ひ込まれ

大阪 三木 亨

早春の地球颯爽と公転

露のたう夜は星座にコンタクト

鶯の声キリストの声に似る

生わかめ湯に一瞬の目覚めかな

骰子を持ってぬ神にも春愁

平野 多聞

一粒は鳥呼ぶ命青木の実

潮まねき海を抱へてハサミ張る

命日は追憶の橋春の川

豆撒や「福は内」と言ふ鬼のをり

滝氷る命羽ばたく形して

藤田美耶子

やはらかき音にリズムや春の雨

空深く紅白梅の弾けけり

白梅の香りにめざむ籠り人

鬼やらひ心の鬼もマスクせり

大阪 出利葉 孝

立春や屋根は光の滑り台

凧は幸福といふ名に嫉妬

レイテ島兵士の熾か土手の野火

木立には光絡まり春近し

幸福といふ名に春の愁ひあり

春光やチルチルミチル供に連れ

菜の花のはるかに浄土ありさうな

鶯張りの廊下渡るや春の風

乙姫の恋文かともさくら貝

ミモザ咲く退院の日の日本晴

人間と宇宙の一生冬霞む

花よりも咲かせる土に春近し

おはようの子供の声に春立てり

思ひ出に蓋せず灸り出す寒夜

守口 中西 厚子

枚方 中 貞子

天命に抗はず消ゆ雪の花